

2020年度 地域連携活動報告書

連携先名称：長野県 木曾町

協定締結日：平成20年11月28日

活動状況：継続中

連携先窓口：長野県 木曾町 建設農林課 農林係 都竹亜耶

活動資金：自治体予算

担当教員（所属）：穂坂賢（醸造科学科）

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：田中尚人（生命科学部）、竹内重吉（国際食料情報学部）

活動目的：

1. 木曾町の地域活性化のための連携協力事業
 - ①信州木曾町はっこうのがっこう
2. 木曾町の有形資源（地域資源研究所）の再整備事業
3. 木曾町との学生交流・インターンシップ連携事業
4. 木曾町の未利用資源の利活用プロジェクト事業

活動内容・成果：

1. 信州木曾町はっこうのがっこう

2020年11月20日（金）～2020年12月13日（日）オンライン受付

2015年から継続開催してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、従来の現地開催が困難な状況であった。そのため、東京農大教授3名（岡田早苗名誉教授、舘博紀名誉教授、穂坂賢教授）に木曾町の発酵食文化に関してそれぞれの専門分野における科学的見地に基づいてオンラインで取材対応し、冊子を制作した。

木曾町の発酵食文化を五感で楽しめる仕組みのキットをオンライン販売とした。

2. 発酵のまちづくり研究所設立準備

発酵食品振興条例および木曾町地域資源研究所を有する木曾町の新規展開事業として、文化的資源を科学的見地と融合し、産官学連携を促進することを目的に、第一段階として令和3年度中に団体設立を目指す。2020年12月に穂坂教授と岡田名誉教授が来町し町理事者との協議を行った。

3. 木曾町との東京農大発酵醸造系学生インターンシップの現地ヒアリング

木曾地域の発酵醸造事業者（酒蔵、味噌蔵等）を訪問し、製造現場へのインターンシップ導入の需要などを各担当者から聞き取り。近隣の伊那エリアでの実施状況を木曾町役場担当職員が同行し視察を行った。

4. 東京農大赤カブ染プロジェクト提案事業

食料環境経済学科竹内重吉准教授の研究室からの依頼に基づき、木曾産の赤カブの残渣を染料に企業とコラボレーションして学生が制作した商品（箸袋とハンカチ）の木曾町での販売依頼を受ける。依頼時期が令和2年度末につき予算対応が厳しい状況下ではあったが、企画財政課管轄のふるさと納税にて一部買取にて対応。しかしながらふるさと納税で単品での扱いは難しい状況と判断し、関連特産品とのセット販売または別企画での利用を検討中。

補足背景)

上記の赤カブプロジェクトに関しては当初令和2年度の木曾町農林振興事業と

東京農大と豊島株式会社との産官学連携事業として県の補助金を利用して未利用資源の商品化を目指す予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大状況の収束の糸口が見えない状況下でのワークショップや都市部との往来を伴う現地訪問が困難であるため、事業実施を断念した。

課題・改善点：

今後の展望と課題として；

木曾町との域学連携は2008年から締結され、岡田早苗名誉教授は木曾町地域資源研究所の所長として6年ほど前からご尽力。また2015年からの発行の町づくり関連事業においては館博名誉教授、穂坂賢教授が協力。

カレッジツアーや研究室の研修などでも木曾町開催を複数年におよんで実施。

こうした経過から、発酵のまちづくり研究所の法人化を目指して産官学連携で次年度以降の更なる展開強化を目指している。